

身代り不動明王像

法住寺の本尊は不動明王である。不動明王は恐ろしげな外見をしているが、それとは対照的に無限の慈悲の心を持っている。インドの伝統に起源を持ち、いくつかの曼荼羅図にも描かれている不動明王は、密教の宗派である天台宗や真言宗において深く信仰されている。不動明王は強力な神であり、すべての障害や汚れを焼き尽くすことによって信者を守るとされている。その顔は、激しい怒りを表現し、その口からは牙がむきだしになっている。右手にはまっすぐな剣を持ち、左手には輪縄を持っている。ダルマ（仏法）の戦士および浄化者としての役割の印として、不動明王は炎に包まれ、硬い岩の台の上に立った姿で表現される。

法住寺の不動明王像は、信者の苦しみを自らに移すという特別な力を持っていると考えられている。毎月 28 日には、通常は像の姿を見えづらくしている格子窓が大きく開け放たれ、人々は中央の部屋で行われる儀式の様子を見ることができる。火に投げられる木の板には人々の願いが託される。寺の壁や垂木、そして不動明王像そのものが、何百回と行われてきたこの火の儀式のため、厚く煤に覆われている。